

だいいく通信 第四十号「冬の号」

いあこやつ

各地に大きな爪あとを残した台風十五号に続き、去る十月十二日には台風十九号が関東地方や甲信地方、東北地方などに記録的な大雨を降らせ、大規模な川の氾濫など甚大な被害をもたらしました。

被害を受けた地域の皆様に心よりお見舞いを申し上げます。来年が平和なよい年でありますよう、祈るばかりです。社報「だいいく通信」は今号で第四十号を迎えました。

今回の内容は、当神社主催の催し物についてのご案内、神社に関する豆知識をお伝えする「お宮あれこれ」、オリジナル・キャラクターたちが活躍する連載まんがなどです。お楽しみいただければ幸いです。

大國神社 宮司 大島資生

令和二年新年のご祈禱受付時間

一月一日(水)	午前零時～一時
二月一日(木)	午前六時～午後五時
二日(木)	午前八時～午後五時
三日(金)	午前八時～午後五時
四日(土)	午前九時～午後一時
五日(日)	午前九時～正午
六日(月)	午前九時～正午
七日(火)	午前九時～正午
十日(水)	初子 午前九時～正午

令和2年の厄年一覧(数え年)

	前 厄	本 厄	後 厄
男性の厄年	24歳 平成9年生 うし	25歳 平成8年生 ねずみ	26歳 平成7年生 い(いのしし)
	41歳 昭和55年生 さる	42歳 昭和54年生 ひつじ	43歳 昭和53年生 うま
	60歳 昭和36年生 うし	61歳 昭和35年生 ねずみ	62歳 昭和34年生 い(いのしし)
女性の厄年	18歳 平成15年生 ひつじ	19歳 平成14年生 うま	20歳 平成13年生 み(へび)
	32歳 平成元年生 み(へび)	33歳 昭和63年生 たつ	34歳 昭和62年生 う(うさぎ)
	36歳 昭和60年生 うし	37歳 昭和59年生 ねずみ	38歳 昭和58年生 い(いのしし)

※近年は女性61歳の還暦も厄年とする場合もあります。

大國神社の今

○第五回だいいくクラシックスを開催しました。

去る九月二十九日、秋恒例となりました第五回「だいいくクラシックス 小林久美・小林明子 デュオ・リサイタル」を開催しました。

昨年に引き続き、東京都交響楽団第二ヴァイオリン副首席奏者の小林久美さんと、同じく東京都交響楽団ヴァイオラ奏者である小林明子さんのお二人によるデュオ・リサイタルで、モーツァルトから現代の作曲家リゲティまで、弦楽器の多様な可能性を見せてくださりながら、楽しいひとときを過ごさせていただきました。小林久美さん、小林明子さん、ご来場くださいました皆様、ありがとうございました。



○第九回だいいく落語会開催決定！

来年(令和二年)四月二十五日(土)に第九回「だいいく落語会」を開催するはこびとなりました。次回も古今亭菊乃丞師匠をお迎えしての独演会です。参加のお申し込みは、来年三月の開運千人講祈禱祭から受け付ける予定です。



お宮あれこれ〜ネズミの話〜

今年の干支は「亥（いのしし）」で、ちょうど十二支のひとつめぐりが一周しました。来年は最初に戻って「子（ね）」となります。そこで、今回は来年の干支にちなんでネズミについてお話しましょう。

ネズミは人間にとって大変身

近な動物です。ネズミにはたくさん種類がありますが、その中で人間の生活圏の中にみられるものはドブネズミ、クマネズミ、ハツカネズミの三種で、これをイエネズミと呼びます。ちなみに、ドブネズミを飼いなしたものがラット、ハツカネズミを飼いなしたものがマウスと呼ばれ、実験動物としても用いられています。イエネズミに対して、森や野原などに生息するものはノネズミと呼ばれ、アカネズミ、ヒメネズミなどたくさん種類があります。なお、地球上でもともと野生のネズミがいないのは南極大陸とニュージーランドだけだそうです。しかし、ニュージーランドも一七七〇年ごろのキャプテン・クックの探検後にネズミ類が入り込んだとのことでした。

身近な動物ではありますが、人間にとっては穀物を食い荒らす害獣です。国連食糧農業機関の調査によると、アジアでは穀物の前生産量の二割、全世界の平均をとっても農産物の一割以上がネズミに食べられているといえます。また、ペストをはじめさまざまな伝染病を媒介することから、忌み嫌われている存在でもあります。



一方、自然界に暮らすネズミは、大部分の種が地価に地下にトンネルを掘り巡らして生活しています。このことによって土壌が耕され、土壌の通気性を高めてもいるそうです。ネズミは食物の摂取量が多く、糞の量も多いため、生態系の中の物質の循環を速め、土壌を肥沃化する役目も果たしています。このため、ネズミ類の除去が土壌の不毛化をもたらすこともあるとされます。

次に、古典作品に登場するネズミたちをみてみましょう。ネズミは当神社の御祭神である大国主（おおくにぬし）神と深いつながりのある動物です。以前、本通信第五号（平成二十三年三月）でもお伝えしました通り、『古事記』上巻には、大国主神が須佐之男命（すさのおのみこと）の娘須世理毘売（すせりびめ）に求婚して、さまざまな試練を受けたという神話があります。そのなかで、鎬矢を野に捜しに行き火を放たれたとき、ネズミが出てきて、「内はほらほら、外はすぶすぶ」と教えて助けてくれた、という話がよく知られています。このネズミは地中に暮らすノネズミでしょう。仏典では月日の経過を白黒二つのネズミが競い走ることにたとえられたそうです。このたとえは『万葉集』巻五の山上憶良の日本挽歌に付された漢詩でも用いられています。平安時代の随筆集『枕草子』一四九段の「むつかしげなるもの（むさくるしく見えるもの）」には「鼠の子の毛もまだ生ひぬを、巢の中よりまろばし出でたる」と記され、当時からネズミはあまり好感をもたれていなかったようです。また、『徒然草』にも、「その物につきて、その物を費やし損なふ物」の一つに「家に鼠あり」と書かれています。

最後に、ネズミの鳴き声に関するお話です。先ほども挙げた『枕草子』の一四五段「うつくしきもの」には次のような一節

があります。「雀の子のねず鳴きするにをどり来る」(雀の子が鼠鳴きをして呼ぶと、おどるようにして来ること)。平安時代当時の「うつくし」は「美しい」ではなく、「かわいらしい」に近い意味でした。ここでの記述では雀の子を呼ぶのに「ねず鳴き」、つまりネズミの鳴き真似をして呼ぶ、と記されています。現代語で考えると、ネズミは「チューチュー」、雀は「チュンチュン」が一般的のように思われます。

平安時代の辞書『色葉字類抄』・鎌倉時代の辞書『名語記』では雀の鳴き声を「啾啾(しゅうしゅう)」と記録しています。「しゅうしゅう」という表記は現代語ですと「しゅーしゅー」になりますが、当時の発音は「チューチュー」に近かったのではないかとされています。

もともとネズミの鳴き声は「チューチュー」と聞いており、雀の鳴き声も「チューチュー」だった時期があると考えられます。『枕草子』に記された場面ではおそらく「チューチュー」という声を出して雀の子を呼んでいるのでしょう。その後、雀は「チュンチュン」という形が標準的になり、「チューチュー」はもっぱらネズミの鳴き声をあらわすようになりました。上で述べましたとおり、人間の生活に与える影響がより大きいため、ネズミが「チューチュー」という鳴き声をいわば勝ち取ったのではないかと考えられます。なお、現在も雀の声を「チューチュー」と呼ぶ方言も各地にみられますが、全国的に見ると「チュンチュン」が優勢です。

古い時代から私たちのごく身近にいたネズミですが、さて、来年はどんな年をつれてきてくれるでしょうか。



祭礼・祈禱などのご案内

○お祓いのお申し込み・お問い合わせなどは次の電話番号もしくはメールにてお願いいたします。不在の場合は、恐れ入りますが、留守番電話のメッセージのあとで、お名前・電話番号・ご用件をお話してください。のちほどこちらからご連絡いたします。

○諸祈祷受付 商売繁盛祈願、心願成就祈願、厄除け、お宮参りなど、随時祈祷を行なっております。祈祷日時については、お電話にてご相談ください。

〈お問い合わせ・お申し込み〉

電話 ○三―三九一八―七九三〇

携帯 ○八〇―一九八七―八七一六

eメール daikokujinja@gmail.com

○次回甲子祭

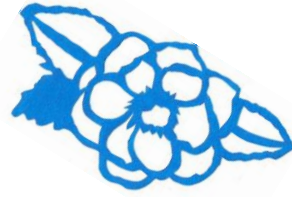
令和元年一月二十二日(水) 午前五時～正午

○開運千人講祈禱祭 毎月一日 午前六時～正午まで



次号発行予定

「だいいく通信第四十号」、いかがでしたか。次号「春の号」は、令和二年三月二十二日の甲子祭に発行予定です。



(連載まんが)

大吉うさぎ

～神社豆知識 その8～

くま こまち 作



「だいいく通信」第四十号 令和元年十一月二十三日発行
編集・発行 大國神社社務所

〒一七〇—〇〇〇三 東京都豊島区駒込三—二—十一

<http://www.daikokujinja.org>